

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 25 日現在

機関番号：17401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2014

課題番号：23660010

研究課題名(和文)日本人看護師の「行為についてのリフレクション」のメカニズムの解明と教授方法の開発

研究課題名(英文)Structure of reflective process in clinical practice by Japanese nurses and the development of a reflection continuing education program

研究代表者

前田 ひとみ (Maeda, Hitomi)

熊本大学・大学院生命科学研究部・教授

研究者番号：90183607

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本人の看護学生(初心者)、新人看護師(新人)、プリセプター(一人前)の臨床経験のリフレクションによる学習プロセスを明らかにすること、そして新人看護師とプリセプターによる効果的な「行為についてのリフレクション」学習プログラムを開発することである。

研究の結果、体験場面が詳細に捉えられなければ、評価や思考へと繋がらないこと、リフレクションの効果を高めるには受容的で自分の感情や思考を確認できるような支援者が重要であることが示された。また、今回作成したプログラムを通して、他者のリフレクションを支援することによって、支援者自身の自己の傾向の気づきにつながることを示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the reflective process on clinical action by nursing students (novice), graduate nurses (advanced beginner), and preceptor nurses (competent), and to develop a reflection continuing education program about “reflection-on-action” for graduate nurses and preceptor nurses in Japan.

The results showed that they could not lead to learning from their clinical experiences unless the subjects clearly recall the clinical situations they faced. Furthermore, it was clarified that the subjects needed to have supporters through whom they could recognize their emotions and thinking in order to promote reflective practice. In addition, it was suggested that the self-understanding of supporters themselves was deepened through supporting the reflection of others in this education program.

研究分野：基礎看護学

キーワード：リフレクション 内省 実践思考能力 看護教育

1. 研究開始当初の背景

経験を構造化してリフレクションすることは、看護職の実践的思考能力を高め、実践家としての成長をもたらすといわれている。リフレクションとは、臨床現場で経験した様々な出来事やその出来事に関係している影響を細かく描写し、分析して、統合することである。

リフレクションによって専門性の発展、個人的成長、エンパワーメント、学習過程の促進がもたらされることから、欧州では 1980 年代頃からリフレクションを用いた看護教育が一般的に行われている。我が国の看護教育界でも、2000 年になってからリフレクションを活用した教育方法や実践例などが報告され、現在では、基礎教育だけでなく継続教育にも取り入れられるようになってきた。しかし、現状は日本人の看護師の特徴を反映した教育方法として確立されているとは言い難い。

2. 研究の目的

本研究は、初心者レベルから一人前レベルの日本人看護師に焦点をあて、臨床経験のリフレクションによる学習プロセスの特徴を明らかにすること、そして新人看護師とプリセプターによる効果的な「行為についてのリフレクション」学習の教授方法を開発することを目的とした。

「行為についてのリフレクション」とは、看護実践を行った後に、その体験を構造化して振り返ることである。

ベナー¹⁾は看護師が初心者から熟練した看護師に成長していくまでを Dreyfus モデルをもとにし、初心者、新人、一人前、中堅、達人の 5 段階に分類している。そして、初心者は看護学生、新人は新卒看護師から卒後 2 年以内の看護師、一人前とは同じまたは類似した状況で 2~3 年くらい仕事をした看護師としていることから、本研究では初心者レベルを看護学生、新人レベルを新卒看護師、一人前レベルをプリセプターとして、対象者を選択した。

3. 研究の方法

(1) 看護学生(初心者)を対象とした調査

調査方法

看護学生を対象に看護教育機関で各領域の臨地実習が終了した A 看護大学 4 年生 70 名を対象に、平成 23 年 6 月に、研究者らが作成した Reflective Journal (以下 RJ) と常盤ら²⁾の批判的思考態度尺度による質問紙調査を実施した。

調査に先立って、看護学生にリフレクションの目的、RJ の記入例、リフレクションをする際の留意点などについて約 20 分間の説明を行った。その後、RJ と批判的思考態度尺度の質問紙、回収用の封筒を配布し、臨地実習の中で最も印象に残った場面の記述を依頼した。そして、研究として使用することにつ

いて同意が得られた看護学生のみ、記載した RJ と批判的思考態度尺度の質問紙を無記名で郵送してもらい回収した。

RJ の作成方法

RJ の枠組みを決定するに当たって、まず先行研究を基に 9 項目の質問からなる RJ を作成した。そして、本調査とは異なる看護教育機関の看護学生 70 名を対象にプレテストを行い、修正を加えた。

今回用いた RJ は次の 3 点を工夫した。1 点目は実習全体の感想文になることを防ぐために一場面に限定して記述することを指示した。2 点目は、自己の内的側面に目を向け、自分の感情の明確化を図るために、感情を問う質問に、感情を表す言葉の種類を具体的に示した。また 3 点目は自分の価値観、強み、弱みについて考えるように「~という自分に気づいた。」と記述するように促した。

分析方法

まず、看護学生が臨地実習の中で印象に残り振り返りたいと思う場面の特徴を解明するために、質的統合法 (KJ 法) を用いた。質的統合法 (KJ 法) は、事例から論理の抽出・発見を行おうとする質的分析方法であり、事例を蓄積していくことによって事例間に共通する論理を抽出し理論化をはかることができる³⁾。手順としては、単位化されたカードを全体感からの類似性によってパターンを認識し、段階的に抽象度を上げていった。そして最終的にラベル同士の関係性を視覚的に構造化し、さらに関係記号に接続詞的な説明を付け加えて関係性を示した。

次に、RJ による看護学生の“気づき”の特徴を明らかにするために、研究者が各自で RJ の場面の描写、感情の表出、分析内容、価値観、強み、弱みについての気づきの記述の有無を検討した後、全員で照らし合わせ、意見が一致したものを“気づきあり”と判断した。そして気づきあり群となし群に分け、2 群間の批判的思考態度得点の差について Mann-Whitney 検定を IBM SPSS19.0 を使用して行い、有意水準は 5%未満とした。

(2) 新人看護師(新人)とプリセプター(一人前)を対象とした調査

調査方法

研究協力の同意が得られた約 600 床の病院の新人看護師とプリセプター各 78 名を対象とした。

リフレクション場面については、新人看護師、プリセプターともに研究協力の同意が得られた場合を研究対象者とし、新人看護師の看護場面に研究者も一緒に同行し、その後の新人看護師とプリセプターのリフレクション場面の参加観察を行った。研究者は観察者の立場を取り、一切その状況には関与しなかった。但し、問いかけや発言の意味が不明なものに関しては終了後に確認した。また、新人看護師とプリセプターのリフレクション場面の会話内容はテープに録音して、逐後録を作成した。

また、介入プログラムの評価として、新人看護師にはリフレクション前と各リフレクションの後、最終リフレクション後の計5回、リフレクションスキルや自己の変化に関する質問紙による自己評価調査を実施した。プリセプターには各リフレクション後の計4回、リフレクション支援スキルと自己の変化に関する自己評価調査を実施した。

介入方法

平成26年4月に看護部職員全員を対象にリフレクションに関する講義を1時間実施した。その後、新人看護師には、本研究の目的、リフレクションの概念やリフレクションの方法についての1日研修を行った。その後、3か月に1回、RJによる臨床体験のリフレクションを実施した。

新人看護師の支援者となるプリセプターに対しては、5月に新人看護師とは別にリフレクションプログラムとリフレクションの支援スキルの理解を促すための研修を行った。そして、看護学生(初心者)を対象とした調査から、リフレクションのプロセスの要になるとことが示された【経験の描写】を促すようにプリセプターが関わられるように、7月、10月、平成27年1月、3月にリフレクション支援の振り返り、事例を用いた問いかけの個人ワークとグループワーク、プリセプター同士の相互リフレクションを行った。

分析方法

質的データについては、新人看護師のRJの内容、新人看護師とプリセプターとのリフレクション場面における新人看護師の語り、プリセプターの問いかけとコメントの量や内容について分析した。

量的データについては基本統計量を算出し、Kruskal Wallis 検定を IBM SPSS19.0 を使用して行い、有意水準は5%未満とした。

(3) 倫理的配慮

本研究の遂行に当たっては、事前に研究代表者の倫理委員会の審査を受けて行った。学生を対象とする場合は、成績などによる強制力や学生の利害関係が働かないように依頼方法、対象学年、介入時期を慎重に選定した。そして、対象者の研究参加の拒否と撤回の権利を守り、自由意思での参加ができるよう注意し、研究に関する事項等を口頭と文書によって説明した後に、書面による同意書をとった。

臨床看護師に対しても自由意思での参加となるよう、同様に行った。また、臨床場面の観察については、患者にも同意を得て行った。

4. 研究成果

(1) 看護学生のリフレクションの特徴について

RJの回収数は36名(回収率51.4%)で、有効回答数は35名(有効回答率50.0%)であった。

臨床実習で看護学生の印象に残った場

面の構造

看護学生が臨床実習で印象に残った場面として振り返っていた看護場面は患者とのコミュニケーション場面、患者指導の場面、看護ケアの提供場面、患者状態の変化の場面に分類できた。そのうち、患者とのコミュニケーション場面が18名と最も多く、患者との適度な距離感がわからなかったことや認知症や精神疾患のために意思疎通が図れなかった患者とのコミュニケーション場面が記述されていた。患者指導の場面は8名が記述しており、退院時指導や糖尿病患者に対する食事指導、術後の呼吸訓練の指導、感染予防の指導場面が記述されていた。看護ケアの提供場面は5名が記述しており、精神疾患患者への転倒予防、ターミナル期の患者への不安軽減を意図した関わり、術後早期離床のための関わり、足浴・手浴のケア場面が記述されていた。患者状態の変化の場面は4名が記述しており、術後不穏になった患者との関わりや急変時の対応場面が記述されていた。

これらを質的統合法(KJ法)で分析した結果、【患者のニーズへの対応困難：患者の真のニーズや対応がわからないことによる戸惑い】【コミュニケーションがとれない患者への対応困難：繰り返される質問や拒否的態度への戸惑い】【患者に負担をかけた体験：状況把握不足からもたらされた患者への負担】【患者からケアを拒否された体験：熟考したケアに対する予測とは異なる患者からの拒否的反応】【戸惑いの中でのケアへの参加：看護師の助言によりケアに参加できた喜び】【患者からの承認：患者の喜びとケアに対する手ごたえ】といったシンボルマークに統合できた。

6つの最終ラベルの関係性に着目して得た空間配置図を図1に示した。

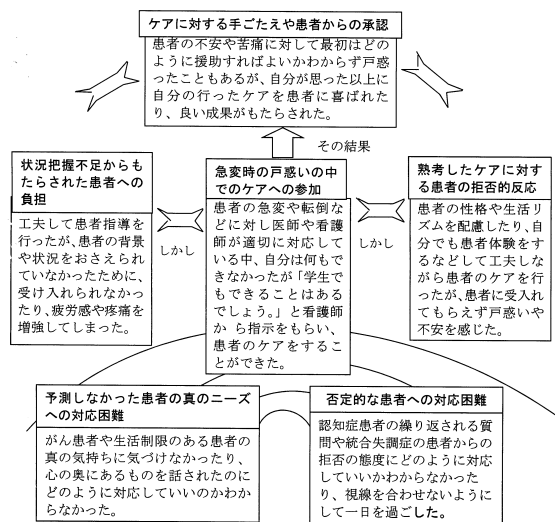


図1 看護学生が臨床実習で振り返りたい場面の関係性に着目して得た空間配置図

看護学生が臨地実習で最も印象に残っている場面は【患者のニーズへの対応困難：患者の真のニーズや対応がわからないことによる戸惑い】と【コミュニケーションがとれない患者への対応困難：繰り返される質問や拒否的態度への戸惑い】から波及し、学習や工夫を重ねたが【患者に負担をかけた体験：状況把握不足からもたらされた患者への負担】や【患者からケアを拒否された体験：熟考したケアに対する予測とは異なる患者からの拒否的反応】に遭遇する。それらの循環の中でさらに熟考を続け【戸惑いの中でのケアへの参加：看護師の助言によりケアに参加できた喜び】ができると【患者からの承認：患者の喜びとケアに対する手ごたえ】を得ることができるという図が示された。

自己の気づきを促すリフレクションの特徴

35名のRJに記述された文章から、1005のカードが作成できた。これらを分類した結果【経験の描写】は、実習の時期、実習場所の特徴、患者の疾患、患者の治療、患者の生活形態、患者のADL、患者の認知面、患者の年齢、患者像、患者の状態、患者の経過、患者の希望、患者のニーズ、患者の言葉、患者の様子、患者の行動、学生の認識、学生の推論、学生の推察、学生の判断、学生の行動、学生が分かっていたこと、学生が今までの経験の中で思っていたこと、看護師のアドバイス、看護師の行動、看護師の様子、病棟側の対応、家族の言葉の28項目に分けられた。【感情の表現】は自分自身に対する感情、患者に対する感情、自分自身に対する思い、患者に対する思いの4項目に、そして、【評価】については自分の行動の良かった側面、自分の行動の悪かった側面、自分の傾向、自分の資質の4項目に分けられた。これらのRJの記述内容から得られた36項目を思考の要素として、抽出された項目を点数化した結果、最高総得点は22点、最低総得点は8点であった。

次に、自己の気づきについて分析した結果、自己についての気づきがあったと判断できた学生は20名(57.1%)であった。記述項目を分析した結果、自己への気づきがあった学生の方がなかった学生よりも、記述されている要素項目が全てにわたって多かった。また【経験の描写】の記述が詳細にされていなければ、【感情】【評価】への思考へと繋がっていないことが明らかとなった。

批判的思考態度尺度得点と自己についての気づきについては、気づきあり群の中央値が57.5点、気づきなし群は57.0点であり、2群間の得点に有意差は認められなかった($p=0.676$)。また下位因子である「懐疑的態度」「論理的思考への自信」「探求心」「根気強さ」「共同的態度」についても有意な差はみられなかった。

(2) 新人看護師とプリセプターによるリフレクションプログラムの評価

プリセプターによる新人看護師のリフレクション支援場面については4組の同意が得られた。

新人看護師とプリセプターの発言量を分析した結果、全体的に回数を重ねるにしたがって、プリセプターの問いかけやコメントよりも新人看護師の発言量が増加していた。また、2回目まではプリセプターの指導内容や新人看護師の説明内容がカテゴリーとなるが多かったが、3回目以降になると、ケアや治療に対する2人の考えや意見に関する会話が増えていた。

回数を重ねるごとに、新人看護師はRJを記述する中で患者や自分についての気づきが増えていた。また、感情や自分の内的環境についても述べるできるようになっていた。

記述したRJをもとに、改めてプリセプターに体験を説明し、確認してすることによって、新たな気づきを導き出せていた。そして、プリセプターのかかわりとして、新人を認め、肯定的な言葉かけが行われると、新人看護師の沈黙の時間がなく、発話が促されることが示された。

自己評価質問紙の回収率は、回によってばらつきがあり、新人看護師は15.8%~46.1%、プリセプターは22.4%~73.7%であった。

新人看護師の看護実践や自己の変化についての自己評価は2回目までは変化が少なかったが3回目から、質問項目30項目中24項目、4回目は12項目で得点が高くなっていた。特に、リフレクションスキルである“知識の想起”、“自己の変化としての看護実践の選択肢拡大”、“自己の行動による状況の望ましい変化”、“変化の要因分析能力”、“工夫の発展性”の5項目についてはリフレクションの回数が重なるごとに自己評価得点が高くなり、有意差が見られた。 $(P<0.05)$

プリセプターのリフレクション支援スキルや自己の変化に関する自己評価についても2回目までは変化が少なかったが3回目、4回目と高くなる傾向が見られた。検定の結果、リフレクション支援スキルである“支援前のRJの把握”、“問いかけの工夫”、“発言を待つ”、“気づきの促進”、“雰囲気作り”、“発言を否定しない”、“気づきの引き出し方”、“感情表出の促し”、“体験に関心”、“発言支援、体験談提供、脱線防止”、“達成の確認”、“考え提案の14項目と、プリセプター自身の変化として、“自己の傾向への気づき”、“新人観察”、“支援の自信”の3項目に有意差が見られた。 $(P<0.05)$

5. 考察

初心者レベルである看護学生には様々な経験をどのように意味づけしていくかが、その人の成長に非常に大きく関わる。看護学生は受け持ち患者との関わりを中心にしたさ

さまざまな体験を自分なりに意味づけしていくが、貴重な経験が意味づけされずに流されたり、一人では独りよがりの解釈になってしまう可能性がある。

本研究では、RJの作成の過程で体験した状況に必要な情報を引き出せるよう質問の順序を工夫した。しかし、一次調査のRJで【経験の描写】があると判断できたのは14名(35.0%)であった。また、【経験の描写】の記述が詳細にされていないければ、【感情】【評価】へと繋がっていないことが明らかとなった。このことから、経験を学習に繋げていくためには、体験したことを正確に記述するスキルが不可欠である。正確な記述には、豊富な語彙力、また関係のない情報と関係のある情報とを区別する必要がある。本研究で抽出された記述項目を細かく問いかけることは、状況を幅広い視点からとらえる訓練につながるのではないかと考える。

Burns⁴⁾はリフレクションにおいて、批判的思考は必須のスキルであると述べる一方で、批判的思考は科学的な方法を基盤とした論理的問題解決過程であるのに対し、リフレクションは思考に関連しているだけでなく、感情を認識し実践の方法に肯定的な変化をもたらす活動であり、リフレクションと批判的思考のそれぞれが目指すものは元々違うと述べている。本研究で自己についての気づきの有無によって批判的思考態度尺度得点に差が認められなかったことについては、用いた尺度に、感情やその感情の影響を探るといった側面が含まれていなかったからではないかと推察する。この結果から、自己についての気づきにつながるリフレクションには自己の感情やその感情の影響を明らかにできることが重要だと考える。

新人看護師(新人)とプリセプター(一人前)のリフレクションプログラムでは、【看護学生(初心者)の調査をもとに【経験の描写】を促すような関わりを重視した。回数を重ねるごとに、新人看護師のRJの中での患者や自己の気づきが増えていた。加えて、新人看護師とプリセプターとのリフレクションでは、プリセプターの問いかけやコメントよりも新人看護師の発言量が増加しており、感情や自分の内的環境についても述べるできるようになっていた。このことから、経験の描写のスキルの重要性がわかる。

プリセプターのかかわりの分析から、新人を認め、肯定的な言葉かけが行われると、より新人看護師の発言が促されることが示された。自分が自分に気づくためには他者の援助が必要であり、相互に信頼し合う関係から新しいものの見方が生まれ、それまでとちがった目でものごとの意味を発見できる。お互いが肯定的に評価をし合う安心した場で、自分の悩みを語り、仲間に共感されることで、初めてありのままの自分と向き合うことができる。このように他者からの共感・承認を得られる対話は、個人に安心感や仲間への相

互信頼感をもたらし、そのことが基盤となって、ありのままの自分と向き合うことを可能にし、その成果として新たな自分への成長をもたらす。そのため、相互に信頼し合う関係の中でリフレクションすることによって、新人看護師だけでなく、プリセプターの自己の傾向への気づきや自信に繋がっていったことが推察できる。

新人看護師、プリセプターともに2回目までは大きな変化が見られなかったことから、リフレクションプログラムは単発で行うのではなく、繰り返し行う必要があることが明らかとなった。

本研究では一施設での実施であり、対象者が少なかったことから、今後、対象者を増やして、さらに検証する必要がある。また、プリセプターの自己評価の分析から、リフレクションの支援者に対し、支援にやりがいを感じられるような動機づけプログラムの開発も必要であることが示唆された。

6. 結論

看護学生(初心者)と新人看護師(新人)のリフレクションと新人看護師の支援者としてプリセプター(一人前)に対するリフレクションの取り組みから、初心者レベルでは、【経験の描写】の記述が詳細にされていないければ、【感情】【評価】への思考へと繋がっていないことが明らかとなった。新人レベルでは受容的で自分の感情や思考を確認できるような支援が重要であることが分かった。また、一人前レベルでは、新人看護師のリフレクション支援によって、自己の傾向の気づきにつながる事が明らかとなった。

今回作成したリフレクションプログラムは単発で行うのではなく、繰り返し実施することで効果が高まる事が示された。

文献

- 1) パトリシア・ベナー著、井部俊子翻訳：ベナー看護論—初心者から達人へ、医学書院、東京、2005
- 2) 常盤文枝他：看護学生の批判的思考態度の構造に関する研究、埼玉県立大学紀要、10、1-9、2008、
- 3) 山浦晴男：質的統合法入門 考え方と手順、18、医学書院、東京、2012
- 4) Sarah Burns 他著、田村由美他監訳：看護における反省的実践 - 専門的プラクティシヨナーの成長 -、ゆみる出版、東京、2005、
- 5) 小林純一：創造的に生きる 人格的成長への期待、金子書房、東京、1986

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

松永麻起子、前田ひとみ、臨地実習のり

フレクションから導かれた看護学生の気づきと批判的思考態度に関する研究、日本看護学教育学会誌、23(1) 2013, pp.43 - 52

前田ひとみ、南家貴美代、古庄、夏香他、看護学生が臨地実習で振り返りたい場面の構造、熊本大学医学部保健学科紀要、査読有、9、2013、pp.53 - 62
<http://hdl.handle.net/2298/27463>

〔学会発表〕(計 6件)

武藤雅子、新人看護師の臨床体験のreflection 支援体験の特徴とreflection方法の特徴、支援者から見た新人看護師の変化、第34回日本看護科学学会、2014年11月30日、名古屋国際会議場、(愛知県・名古屋市)

武藤雅子、新人看護師の臨床体験のreflection体験の特徴と臨床実践の変化、第34回日本看護科学学会、2014年11月30日、名古屋国際会議場、(愛知県・名古屋市)

松永麻紀子、看護学生の《自己への気づき》を導くリフレクティブジャーナルの開発、日本看護学教育学会第22回学術集会、2012年8月5日、熊本県立劇場(熊本・熊本)

松永麻紀子、リフレクティブジャーナルを用いた看護学生の《自己への気づき》を導く思考の特徴、第38回日本看護研究学会学術集会、2012年7月07日、沖縄コンベンションセンター(沖縄県・宜野湾市)

松永麻起子、看護学生に対するリフレクション教育の教授方法と評価に関する文献検討、日本看護学教育学会第21回学術集会、2011年8月30日、(埼玉県・大宮市)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前田 ひとみ (MAEDA, Hitomi)
熊本大学・大学院生命科学研究部・教授
研究者番号：90183607

(2) 研究分担者

武藤 雅子 (MUTO Masako)
活水女子大学・看護学部・講師
研究者番号：40585147

田村 由美 (TAMURA Yumi)
日本赤十字看護大学・大学院看護学研究科・教授
研究者番号：90284364

(3) 連携研究者

南家 貴美代 (NAKKE Kimiyo)
熊本大学・大学院生命科学研究部・助教
研究者番号：80264315